

社会科における授業づくりのポイント

江崎 億

1 社会科における主眼について

社会科では、授業の主眼を二つの観点から書きます。一つは、内容【知識及び技能】です。二つは、その内容を捉えるための視点や活動【思考力、判断力、表現力等】を書きます。

○ 主眼の作り方の例

主眼1 ○○が～して、(仕組み)～することにより、(働き)～していることを捉えることができるようにする。
 2 ○○において(時間、空間、相互関係)に着目し(比較、関連、総合)する活動を通して、(仕組みや働き)を話し合うことができるようにする。

【第3学年「久留米市の工場のしごと」の主眼の例】 ①…主眼1 ②…主眼2

1 学習指導要領解説(37ページ 一部抜粋)内容の焦点化

- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 (ア) 生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解すること。
 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 (イ) 仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現すること。

- ① 捉えさせる内容は、地域の人々の生活との密接な関わり。
 ② 着目するのは仕事の工程、考えさせるのは、地域の人々の生活との関連。

2 学習指導要領解説(38～39ページ 一部抜粋)内容の具体化

- ・生産するには一定の順序や工程があること、地域で生産された物は地域の人々の生活に使われていること。
- ・仕事の工程に着目するとは、工場の仕事に見られる原材料の仕入、施設・設備、働く人の仕事の手順、生産物の販売の様子について調べることである。

- ① 地域の人々の生活に生産された物が使われている事実。
 ② 着目するのは、原材料の仕入、施設・設備の様子、働く人の仕事の手順が一定に決まっていること、生産物の販売が地域で行われていること。

3 教科書の本時と前後の内容のつながり

- | 【前時までの内容】 | 【本時】 | 【本時後の内容】 |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・生産の工程は、部品と組立で一つの流れになっていること。 ・危険な作業は機械、細かい作業は人の手で分業していること。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生産された物が、全国の地域へ販売されていること。 ・原材料の仕入は、海外や国内の他地域から行っていること。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生産された物が、全国の地域へ販売されていること。 ・原材料の仕入は、海外や国内の他地域から行っていること。 |

- ① 前時までは、時間的・量的な生産の捉え、本時で質的な生産の捉えをして、次時は輸送面から捉える。
 ② 前時までは工程に沿って調べ、本時では工夫について調べる。

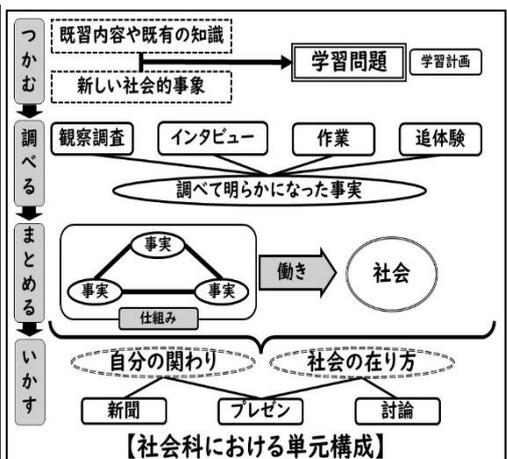
- ① 開発者の塚本さんが、人々の願いに応じて、専門家の助言や工場の技術を生かして、歩きやすく履きやすい靴を開発できたことにより、「快歩主義」が地域の人々に売れ続けていることを捉えることができるようにする。
 ② 「快歩主義」の開発において、塚本さんのしたことに着目し、製品の特長と人々の要望を調べて関連付ける活動を通して、地域のたくさんの人々に「快歩主義」が売れ続けている理由を話し合うことができるようにする。

2 社会科における単元指導計画について

社会科では、目に見える事実から、目に見えない仕組みや働きを捉えることができるように、内容の配列をしておくことで、社会的事実と自分の関わりや社会の在り方を考えさせることが大切です。

社会科の単元指導計画では、事実から子供が社会的事実について調べる意欲をもつことが大切です。調べた事実を関連付け、仕組みを基に説明できない事実に出合わせ、働きを考える活動を仕組みます。この過程を踏むことで、地域や国への誇りや愛情を育み、社会の一員としての自覚を養います。

第3学年 単元「久留米市の工場のしごと」		
過程	内容	子供の問い
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鉄道や高速道路、筑後川といった地理的条件 ○ たくさんの種類の工場が分布していること 	<ul style="list-style-type: none"> ● 久留米市には、どんな工場があるのか。 ● 久留米市では、どんなところに工場があるのか。
調べる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生産の仕事の工程 ○ 生産の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ● どのようにしてたくさんつくっているのだろう。
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 製品の開発 ○ 他地域への輸送 	<ul style="list-style-type: none"> ● なぜ、生み出したのだろう ● どのようにしてとどけているのだろう
いかす	<ul style="list-style-type: none"> ○ 久留米市の工場の生産への自分の関わり 	<ul style="list-style-type: none"> ● どのようにしてわかったことを伝えるか



3 社会科における一単位時間の学習過程について

社会科では、子供自らが問題意識もち、調べてわかった事実を、時間・空間・相互関係的な見方（視点）を通して、比べたり、分けたり、つなげたりしてまとめることで、社会的事象の仕組みや働きを捉える、問題解決的な学習過程を大切にします。

○ 一単位時間の学習過程（波線は、ICT活用）

段階	子供の活動	○教師の具体的支援
導入	<p>○ 既習の知識や資料と本時の資料を比べ、本時学習のめあてについて話し合う。</p>  <p>めあて なぜ、○○は、□□しているのだろう。</p>	<p>○ 社会的事象のズレに気付かせるために、<u>既習の事象がわかる資料を学習者用端末に提示する。</u></p> <p>※ 必要に応じて、具体物を提示する場合もある。</p>
展開	<p>○ 既習の視点や考え方を振り返り、本時における調べる活動の見通しをもつ。</p> <p>【見通しは調べる視点や考え方を書きます。】 □時間・空間・相互関係(視点) □特色や意味(考え方)</p> <p>○ 調べた事実を整理し、視点を基に考えをつくる。</p>  <p>○ 調べた複数の事実を関連付け総合し、仕組みや働きを話し合う。</p>  <p>まとめ □□は……することで、△△している。</p>	<p>○ 調べる活動の方法の見通しを立てさせるために、<u>学習者端末に保存した既習の内容と方法を確認する場を設定する。</u></p> <p>○ 自分の考えをつくらせるために、<u>学習者用端末で調べた事実を整理する場を設定する。</u></p> <p>○ 調べた事実を比較・関連したことを共有して仕組みや働きを総合的に考えさせるために、<u>つくった自分の考えを学習者用端末から提出して共有する場を設定する。</u></p>
終末	<p>○ 学習内容を振り返り、次時への学習意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時学習でわかったこと ・新しく追究する必要があること 	<p>○ 次時の学習への意欲を高めさせるために、<u>振り返りや予想を共有する場を設定する。</u></p>

4 社会科における ICT の活用について ※ ICTの活用は主眼達成の手立てであり、目的にならないように気を付けます。

社会科では、学習段階によって、ICTの三つの活用の仕方があります。

【導入】資料などを全体へ提示することで課題を話し合わせる使い方。

【展開】集めた事実を、比較・分類・関連・総合させ、仕組みや働きを見いださせる使い方。

【終末】情報を集約したり、予想を共有させたりして、意欲を高めさせる使い方。

○ 社会科の学習段階における ICT の活用

